

1 実現に向けて推進する戦略

**戦略11** 熊本都市圏の拠点性向上  
～将来の州都をめざします～

- ① 州都をめざした取組みの展開
- ② ハブ機能の強化

**戦略12** 悠久の宝の継承  
～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

- ① くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承
- ② くまもとの自然・景観の保全・継承

**戦略13** 環境を豊かに  
～環境意識と行動を高めていきます～

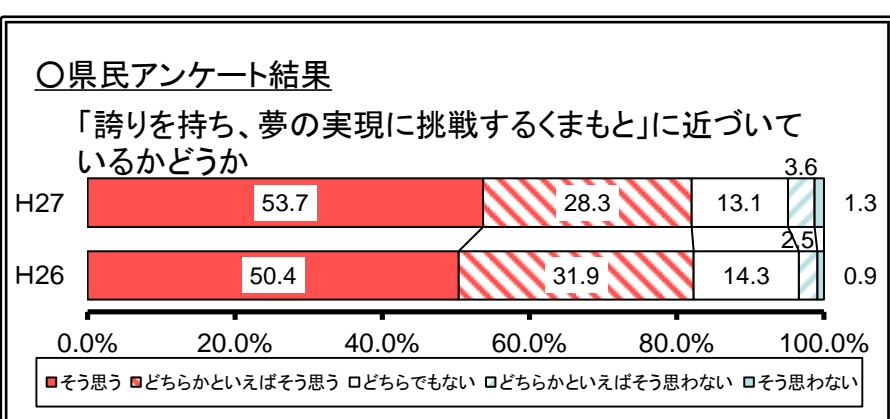
- ① 生活と自然の共生
- ② 県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践

**戦略14** 熊本アカデミズム  
～「知」の集積を「地」の力につなげます～

- ① 世界からの知の集積
- ② グローバルな人材の育成

**戦略15** 夢を叶える教育  
～次代を担う人材を育てます～

- ① 夢を育む教育の推進
- ② 夢を広げる教育の展開



2 戦略指標の動向

※ 下表の「指標の動向」・「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標	➡	☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標	➡	★

指標	戦略策定時(年度)	H24実績値(H25評価)	H25実績値(H26評価)	H26実績値(H27評価)	単位	指標の動向(策定時との比較)	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略11	① 県・熊本市の政策連携協定数(熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	—	5	8	14	項目	➡	毎年度着実に増加を図る	累計	
	阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人/年(H23)	285	306	310	万人	➡	300万人/年	単年	★
	② 熊本駅の乗降客数	893万人/年(推計値)	920	973	992	万人	➡	920万人/年	単年	★
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	41.5%(H23)	41.5	43.1	45.4	%	➡	50.0%	単年	
戦略12	① 文化施設の利用者数	94.8万人/年(H23)	102.9	98.9	86.2	万人	➡	100万人/年	単年	
	② 世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	5か所(H23)	11	12	13	か所	➡	14か所	累計	
	③ 【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数	1万人/年(H23)	1.6	2.5	4.7	万人	➡	2万人/年	単年	★
	④ 【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数	3万人/年(H23)	4.3	3.9	3.9	万人	➡	4万人/年	単年	
	⑤ 熊本地域の地下水涵養増加量(白川中流域水田湛水事業等による涵養量)	2,065万㎡(H23)	1,675	1,931	2,040	万㎡	➡	3,600万㎡	単年	
	⑥ 【補】景観行政を行う市町村数	7市町村(H23)	7	9	16	市町村	➡	16市町村	累計	☆
	⑦ 【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数	2,137人/年(H22)	2,103	2,386	1,976	人	➡	3,137人/年	単年	
戦略13	① 有明海・八代海的环境基準の達成度(COD)	72.2%(H22)	72.2	72.2	83.3	%	➡	100%	単年	
	有明海・八代海的环境基準の達成度(全窒素・全リン)	83.3%(H22)	83.3	66.7	83.3	%	➡	100%	単年	
	一般廃棄物排出量	57万9千トン/年(H21)	56.5	56.5	56.5	万トン/年	➡	57万2千トン以下/年	単年	★
	② 【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数<再掲>	304会員(H23)	345	505	510	会員	➡	600会員	累計	
【補】環境センターの来館者数及び出前講座の受講者数	157,372人/4年(H20~H23)	38,966	82,576	121,340	人	➡	164,000人/4年(H24~H27)	累計		
戦略14	① 研究開発部門の企業立地件数	9件/4年(H20~H23)	6	12	18	件	➡	10件/4年(H24~H27)	累計	☆
	海外高校への留学生数	10人/年(H23)	19	34	44	人	➡	100人/4年	累計	
	英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.9%(H23)	48.4	50.1	52.3	%	➡	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	★
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.4%(H23)	47.5	49.4	51.1	%	➡		単年	
留学生の数<再掲>	575人/年(H23)	655	684	735	人	➡	1,000人以上/年	単年		
戦略15	① 教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合	77.8%(H23)	75.9	75.5	77.4	%	➡	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合	83.4%(H23)	82.4	82.8	84.7	%	➡		単年	
	【補】「親の学び」講座実施率	50.3%(H23)	62.0	66.0	72.5	%	➡	70%	単年	★
	② 海外高校への留学生数<再掲>	10人/年(H23)	19	34	44	人	➡	100人/4年	累計	
ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人/年(H23)	1,342	1,580	1,804	人	➡	1,700人/年	単年	★	

3 平成26年度の主な成果・今後の課題や方向性

平成26年度の主な成果

今後の課題や方向性

【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上～将来の州都をめざします～

「道州制シンポジウム」や、県内の学生による「州都イメージ発表会」を開催し、道州制や州都に関する周知啓発を進めるとともに、くまもと移住定住促進戦略推進協議会を設立し、戦略を踏まえた具体的施策を展開した。

また、大空港構想を推進し、台湾高雄線の定期チャーター便の就航のほか、空港ライナーの利用者増、崇城大学とエアライン等との協力協定締結等の成果が上がった。

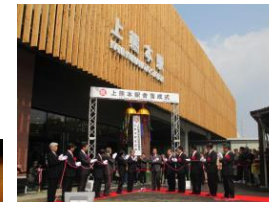
熊本駅では、乗降客数が目標を達成したほか、上熊本駅を含む鹿児島本線上下線4kmと熊本駅部上り線2kmの高架切替を行うなど、周辺を含めた整備が進んだ。さらに、国道57号4車線化(南阿蘇村立野～大津町瀬田間2.5km)や、熊本港コンテナ取扱量の過去最高更新など、九州におけるハブ機能の強化が図られた。

道州制や州都について、様々な機会を捉えた県民への周知啓発や丁寧な議論を進める必要がある。また、くまもと移住定住促進戦略を推進するため、協議会で検討等を行い、具体的施策を展開していく。

また、ハブ機能の強化に向け、大空港構想では、台湾高雄線の定期便化を目指すとともに、需要が見込まれる新規路線開設をめざし、継続して国際航空路線の誘致・拡充を進めていく。熊本駅周辺では、高架化工事を継続して推進していく。さらに、国に対する幹線道路の早期整備の働きかけや、熊本港の利便性や認知度向上を推進していく。



〔県内の学生による「州都イメージ発表会」〕



〔JR鹿児島本線高架開業及び上熊本駅舎落成〕

【戦略12】悠久の宝の継承～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

歴史・文化の磨き上げについて、万田坑、三角西港を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録に向け、ユネスコの調査機関による現地調査に対応したほか、天草の崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」では、国の推薦決定を経て、推薦書を提出するなど、準備が進んだ。また、鞠智城に関し、シンポジウムや研究論文の公募等を通じて知名度や歴史的価値の認知度の向上を進めた。さらに、近代文学館の改修後の名称が「くまもと文学・歴史館」に決定したほか、関係施設との連携等により「熊本県総合博物館ネットワーク」構想が進んだ。自然・景観の保全・継承について、地下水採取許可制度の浸透、関係者による地下水保全の第二期行動計画の推進等により、地下水保全対策が進んだほか、130.71haでイエロープロジェクトが実施されるなど、里モンプロジェクトによる189件の支援が進んだ。

「明治日本の産業革命遺産」では、関係機関と連携し、世界遺産登録実現に向け、周知啓発を実施するとともに、天草の崎津集落については、関係市町と連携し、調査機関の現地調査への対応や登録後を見据えた来訪者対策等を推進していく。また、「熊本県総合博物館ネットワーク」構想の推進では、県内博物館等との更なる連携が必要である。

「水の国くまもと」づくりとして、地下水採取許可制度の徹底、関係機関連携による地下水涵養量の更なる確保や硝酸性窒素削減対策、「水の国くまもと」の情報発信等を進めていく。



〔三角西港〕



〔万田坑〕

【戦略13】環境を豊かに～環境意識と行動を高めていきます～

環境再生や景観向上等に配慮した事業を推進する「みどりの創造プロジェクト」に新たに4カ所で着手し、県内計24カ所となった。また、「くまもと・みんなの川と海づくりデー」に31市町村が取り組んだほか、森林整備や個人設置型浄化槽の整備、国と連携した「水俣条約1周年フォーラム」の開催等に取り組んだ。

環境意識の醸成では、出前講座、イベント、表彰等の啓発活動を推進したほか、九州7県共同で「九州エコライフポイント制度」を実施、意識啓発を行った。また、廃棄物対策では公共関与最終処分場「エコアくまもと」の建設が順調に進んでいる。

「水銀フリー」社会の実現に向けた情報発信とともに、水銀含有製品の回収・処理システムを構築する。加えて、国際的な取組が進むよう、国際会議等の機会を通じ、水俣病の教訓等の情報を発信する。

また、県北の環境教育の拠点として、「エコアくまもと」での環境学習を関係機関等と連携して実施するほか、不法投棄撲滅の取組を強化していく。



〔「水俣条約1周年フォーラム」の開催〕

【戦略14】熊本アカデミズム～「知」の集積を「地」の力につなげます～

6件の研究開発部門を誘致し、目標を大きく上回ったほか、水銀専門家育成のため、県立大学が留学生2名を受入、4名の「くまもと未来会議」委員招へい等により、知の結集・集積を図った。

また、大学・リサーチ・熊本等との連携による留学生の支援、官民出資の世界チャレンジ支援基金を活用した若手芸術家(8人)、高校生(15人)の海外派遣、国のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定校(済々黌高等学校)でのグローバル人材育成に向けたカリキュラムの開発着手など、海外との交流促進に向けた仕組みづくりが進んだ。

水銀専門家をめざす留学生を引き続き受け入れ、環境リサーチ構想を後押しするとともに、水俣市における拠点施設づくりに向けた取組を支援していく。

また、基金を活用した高校生派遣の拡大やSGHの成果普及を通じた英語教育の充実等により海外へ挑戦する若者を支援するとともに、留学生コーディネーターの配置等により学びやすい環境づくりを支援し、留学生の受入促進を図る。



〔世界チャレンジ支援基金を活用した海外派遣〕

【戦略15】夢を叶える教育～次代を担う人材を育てます～

夢を育む教育の推進では、教員のICT活用指導力を向上させるとともに、県立学校にスーパーティーチャーを配置し、教員の指導力向上に取り組んだ。また、小中学校に学級経営指導員を派遣し、教育活動を支援した。加えて、県内全域で「親の学び」講座を開催し、65,427人が参加したほか、放課後子ども教室等にくまモンを派遣した。

ひとり親家庭等の子どもたちへの支援として、新たに50以上の「地域の寺子屋」の仕組みづくりや、107カ所の「応援の塾」の登録、38カ所の「地域の学習教室」の開所などが進んだ。夢を拡げる教育の展開では、熊本時習館海外チャレンジ塾を継続し、海外進学を総合的に支援したほか、ものづくりチャレンジ事業等の推進により受講児童・生徒数が増加し、目標を達成するなど、ものづくりへの理解が進んだ。

小中学校での組織的な学力向上の取組を支援するため、新たに学力向上アドバイザーを派遣する。「親の学び」講座では、県内全小中学校での実施に向け、市町村との連携を強化するとともに、幼稚園等でモデル事業を実施する。

また、「地域の寺子屋」では、ボランティアの登録を増やし、要望に対しての派遣数を拡大を図る。

さらに、グローバル人材育成の必要性の高まりを受け、海外進学を総合的に支援する体制を更に充実させる。



〔放課後子ども教室や学校等へくまモンを派遣〕